

平成26年度  
日本歯科大学歯学会  
第1回ウインターミーティング  
プログラム・抄録集



平成26年12月13日(土)  
日本歯科大学生命歯学部  
8階 富士見ホール・展示ホール  
7階 臨床講義室

日本歯科大学歯学会

# 第1回ウインターミーティング プログラム・抄録集

## 目次

スケジュール	2
参加者へのご案内	3
プログラム	4
シンポジウム	11
口頭発表	14
口頭発表(English 学内発表会)	19
研究推進フォーラム	21
ポスター発表	23

日本歯科大学歯学会ウインターミーティング・スケジュール 平成26年12月13日(土)

時間	富士見ホール(8F)	臨床講義室(7F)	展示ホール(8F)	展示ホール(8F)		
10:00	開会挨拶 口頭発表(日本語)1-1 1-2 1-3		10:00~11:00 ポスター準備			
11:00	1-4 1-5 1-6 1-7 1-8 1-9					
12:00	昼食休憩					
13:00	13:00~16:00 シンポジウム	口頭発表(日本語)1-10 1-11 1-12 1-13 休憩	11:00~16:15 ポスター掲示 4-1~4-35	10:30~17:00 企業展示		
14:00		口頭発表(English)2-1 2-2 2-3 2-4 2-5				
15:00		休憩 研究推進フォーラム3-1 3-2 3-3 3-4				
16:00					16:15~17:00 ポスター質疑	
17:00					終了	終了

## 参加者へのご案内

---

### 参加の皆様へ

1. 駐車場のご用意はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
2. 学術大会参加章には所属・氏名を記入の上、常時胸につけてご入場ください。
3. 学会会場におけるビデオ・写真撮影等は、発表者の著作権保護のため禁止となっております。
4. 日歯生涯研修について
  - 1) 本大会に参加（出席）した場合には、特別研修として6単位が取得できます。なお、特別研修の単位登録には、受講研修登録用ICカードが必要ですので、ご自身の日歯ICカードを必ずお持ちください。
  - 2) その他の各プログラムの単位登録は、会場に張り出された短縮コードをご利用の上、ご自身でご登録ください。
  - 3) 詳細は日本歯科医師会にお問い合わせください。

### 口頭発表について

1. 日本語による発表は、発表8分、質疑応答2分とします。
2. 英語による発表（English学内発表会）は、発表10分、質疑応答5分とします。
3. 研究推進フォーラムは、発表10分、質疑応答5分とします。
4. 口演は全てPCによる発表（単写）とします。
5. MicrosoftPower Point2013/2010/2007で作成してください。
6. 発表データは、USBフラッシュメモリにて提出してください。
7. 発表予定時刻の30分前までに、PC受付（8階富士見ホール前受付）にて発表データの提出ならびに試写確認を行ってください。

### ポスター発表について

8. 受付は10時00分より展示ホールにて行います。受付でネームプレートをお受け取り下さい。
9. 当日の予定は以下の通りです。

準備	10時00分～11時00分
展示	11時00分～17時00分
ポスター質疑	16時10分～17時00分
3. ポスターの展示スペースは、縦160cm×横90cmとします。
4. ポスターの貼りつけは、プッシュピンを各自ご用意下さい。

## プログラム 12月13日(土) 【富士見・展示ホール, 臨床講義室】

■11:00~17:00 ポスター展示 展示ホール

■10:30~17:00 業者展示 展示ホール

■10:25 歯学会会長挨拶 富士見ホール 勝海一郎

■10:30~12:00 口頭発表(日本語) 富士見ホール

■12:00~13:00 昼休み

■13:00~16:00 シンポジウム 富士見ホール

座長 日本歯科大学附属病院総合診療科教授 岡田智雄

日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座教授 佐藤 聡

生涯研修コード【2906】

「高齢社会における歯科医療の役割 —摂食・嚥下、訪問・在宅診療—」

「在宅で“食べる”を支えるということ」

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長 菊谷 武

「地域包括ケアに向けた訪問歯科診療・口腔ケアの在り方と後方支援病院の重要性」

日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学講座教授 田中 彰

「超高齢社会において口腔保健が果たす役割 —歯科衛生士の現状と課題—」

日本歯科大学新潟病院歯科衛生士科 藤田浩美

■13:00~13:40 口頭発表(日本語) 7階臨床講義室

■13:50~15:05 口頭発表(English 学内発表会) 7階臨床講義室

■15:15~16:15 研究推進フォーラム 7階臨床講義室

■16:15~17:00 ポスター質疑 展示ホール

## 【富士見ホール】

■10:30~12:00 口頭発表

座長 仲谷 寛 (附属病院総合診療科)

生涯研修コード【2299】

- 1-1 MALT1による口腔扁平上皮癌細胞増殖のGI期停止  
○千葉忠成<sup>1</sup>、川本幸寛<sup>2</sup>、大山嘉人<sup>2</sup>、美原希美<sup>1</sup>、須藤 遥<sup>1</sup>、今井一志<sup>1</sup>  
日本歯科大学生命歯学部生化学講座<sup>1</sup>、明海大学歯学部病態診断治療学講座口腔顔面外科学Ⅱ<sup>2</sup>
- 1-2 開口器の改良と強制開口法の確立  
○都築民幸<sup>1</sup>、岩原香織<sup>1</sup>、宮坂 平<sup>2</sup>  
日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座<sup>1</sup>、日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座<sup>2</sup>
- 1-3 子どもマルトリートメントと歯科 ―児童養護施設入所児の口腔内診査からわかったこと―  
○岩原香織、都築民幸  
日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座

座長 阿部祐三 (新潟病院総合診療科)

生涯研修コード【2999】

- 1-4 フッ化物含有研磨剤がホワイトニングの効果と歯の表面に与える影響  
○干川 摂、松村和洋、中西生美、北 大樹、長谷川充、岡田威一郎、  
小林 埋、石川明子  
日本歯科大学附属病院 ホワイトニングチーム
- 1-5 在宅訪問における重症心身障害児の摂食指導  
○田村文誉<sup>1,2</sup>、町田麗子<sup>1</sup>、児玉実穂<sup>1</sup>、高橋賢晃<sup>1</sup>、白瀧友子<sup>1,2</sup>、元開早絵<sup>2,3</sup>、  
水上美樹<sup>2</sup>、菊谷 武<sup>1,2,3</sup>  
日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科<sup>1</sup>  
日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション多摩クリニック<sup>2</sup>  
日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学<sup>3</sup>
- 1-6 大動脈弁置換術後のダウン症患者に対する日帰り全身麻酔経験  
○大藤理恵<sup>1</sup>、石橋彩里<sup>1</sup>、安田佑理<sup>1</sup>、砂田勝久<sup>1</sup>、三浦 誠<sup>2</sup>  
日本歯科大学生命歯学部歯科麻酔学講座<sup>1</sup>、横浜市歯科保健医療センター<sup>2</sup>

座長 海老原 隆 (新潟病院総合診療科)

生涯研修コード【2606】

- 1-7 食品の硬さの違いによる咀嚼運動の経路、リズム、速度の変化  
○小見野真梨恵、志賀 博、田中 彰、横山正起、小池麻里  
日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座
- 1-8 苦味の認知前後における咀嚼運動の経路とリズム  
○岡田大和、志賀 博、中島邦久、横山正起、小池麻里  
日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座
- 1-9 健常者における咀嚼運動速度のパターン  
○上杉華子、志賀 博、中島邦久、横山正起、小池麻里  
日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座

## 【7 階臨床講義室】

### ■13:00~13:40 口頭発表

座長 宮坂 平 (生命歯学部歯科理工学講座)

生涯研修コード【2609】

#### 1-10 ジルコニア高密度焼結体のレーザーを用いた新しい加工法

- 風間一小出未来<sup>1</sup>、大熊一夫<sup>2</sup>、宮川行男<sup>2</sup>  
日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター<sup>1</sup>  
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科理工学講座<sup>2</sup>

#### 1-11 早期における繰返しねじり試験によるアバットメントスクリューの緩み

- 勝田康弘、渡邊文彦  
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座

座長 五味治徳 (生命歯学部歯科補綴学第2講座)

生涯研修コード【2504】

#### 1-12 舌清掃器具の清掃効果の検討 (第1報) —人工舌苔形成の試み—

- 煤賀美緒<sup>1</sup>、大森みさき<sup>2</sup>、三上正人<sup>3</sup>、土田智子<sup>1</sup>、宮崎晶子<sup>1</sup>、佐藤治美<sup>1</sup>、筒井紀子<sup>1</sup>、  
元井志保<sup>1</sup>、菊地ひとみ<sup>1</sup>、両角祐子<sup>4</sup>  
日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科<sup>1</sup>  
日本歯科大学新潟病院総合診療科<sup>2</sup>  
日本歯科大学新潟生命歯学部微生物学講座<sup>3</sup>  
日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座<sup>4</sup>

#### 1-13 歯肉溝滲出液および唾液成分解析の歯周病検査における有用性の比較

- 上原 直<sup>1</sup>、伊藤 弘<sup>1</sup>、沼部幸博<sup>1</sup>、関野 愉<sup>1</sup>、村樫悦子<sup>1</sup>、石黒一美<sup>1</sup>、今井一志<sup>2</sup>、  
戸円智幸<sup>3</sup>、小川智久<sup>4</sup>、久野彰子<sup>4</sup>、橋本修一<sup>5</sup>  
日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座<sup>1</sup>、日本歯科大学生命歯学部生化学講座<sup>2</sup>、  
日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター アイソトープ研究施設<sup>3</sup>、  
日本歯科大学附属病院総合診療科<sup>4</sup>、日本歯科大学生命歯学部<sup>5</sup>

**【7 階臨床講義室】**

**■13 : 50~15 : 05 口頭発表 (English 学内発表会)**

座長 影山幾男 (新潟生命歯学部解剖学第1講座)

今井一志 (生命歯学部生化学講座)

生涯研修コード【3199】

- 2-1 The oral environment and salivary fluoride concentration in 4-6-year-old children**  
○Terumi Iwasaki, Yoshimori Uchikawa  
Pediatric Dentistry, The Nippon Dental University Hospital
- 2-2 Controlled release of simvastatin from biodegradable hydrogels promotes the formation of secondary dentin**  
○Atuko Miyazawa<sup>1</sup>, Tomonori Matsuno<sup>1</sup>, Kazunari Asano<sup>1</sup>, Yasuhiko Tabata<sup>2</sup>, Izumi Mataga<sup>1</sup>  
The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Department of Oral & Maxillofacial Surgery<sup>1</sup>, Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University<sup>2</sup>
- 2-3 Relationship between the incisor position and its lingual surface morphology in normal occlusion**  
○Yuh Hasegawa<sup>1</sup>, Akira Ezura<sup>1</sup>, Batbayar Nomintsetseg<sup>1</sup>, Yukari Terashima<sup>1</sup>, Satoshi Uzuka<sup>2</sup>, Kazuo Terada<sup>1</sup>  
Department of Orthodontics, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry at Niigata<sup>1</sup>, The Nippon Dental University Hospital<sup>2</sup>
- 2-4 In vitro study on regeneration of periodontal tissue microvasculature using human dedifferentiated fat cells**  
○Yutaka Shimizu<sup>1</sup>, Mizuki Tsubokawa<sup>1</sup>, Kosuke Maruyama<sup>2</sup>, Dai Nakajima<sup>2</sup>, Soh Sato<sup>2,3</sup>  
Comprehensive Dental Care, The Nippon Dental University Niigata Hospital<sup>1</sup>, Department of Periodontology, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry at Niigata<sup>2</sup>, Division of Cell Regeneration and Transplantation, Advanced Research Center, The Nippon Dental University School of Life Dentistry<sup>3</sup>
- 2-5 Affibody probes for near-infrared fluorescence imaging of HER2-expressing cancer cells in sentinel lymph nodes**  
○Makoto Tsuchimochi<sup>1,3,4</sup>, Haruka Yamaguchi<sup>4</sup>, Kazuhide Hayama<sup>1</sup>, Yasuo Okada<sup>2</sup>, Tomoyuki Kawase<sup>3,5</sup>  
Department of Oral and Maxillofacial Radiology<sup>1</sup>, Department of Pathology<sup>2</sup>, Advanced Research Center<sup>3</sup>, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry at Niigata. Quantitative Diagnostic Imaging Program, The Nippon Dental University Graduate School of Life Dentistry at Niigata<sup>4</sup>, Division of Oral Bioengineering, Institute of Medicine and Dentistry, Niigata University<sup>5</sup>



## 【7 階臨床講義室】

### ■15 : 15～16 : 15 研究推進フォーラム

座長 土持 眞 (新潟生命歯学部歯科放射線学講座)

砂田勝久 (生命歯学部歯科麻酔学講座)

生涯研修コード【3199】

- 3-1 PRP中に含まれる細胞増殖因子とゼラチンハイドロゲルスポンジを用いた歯周組織再生  
○中島 大<sup>1,2</sup>、田畑泰彦<sup>2</sup>、佐藤 聡<sup>1,3</sup>  
新潟生命歯学部歯周病学講座<sup>1</sup>、京都大学再生医科学研究所生体材料分野<sup>2</sup>、  
日本歯科大学先端研究センター再生医療学<sup>3</sup>
- 3-2 各種CAD/CAMシステムを用いて製作したクラウンの寸法精度評価  
○清水沙久良、黒田聡一、新谷明一、五味治徳、新谷明喜  
生命歯学部歯科補綴学第2講座
- 3-3 CT画像を用い3Dプリンタにより作製した下顎骨模型の寸法精度に関する研究  
○石田祥己<sup>1</sup>、宮坂 平<sup>1</sup>、青木春美<sup>1</sup>、相馬弘子<sup>1</sup>、青柳有祐<sup>1</sup>、三浦大輔<sup>1</sup>、河合泰輔<sup>2</sup>、浅海利恵子<sup>2</sup>、  
新谷明喜<sup>3</sup>、清水沙久良<sup>3</sup>  
生命歯学部歯科理工学講座<sup>1</sup>、生命歯学部歯科放射線学講座<sup>2</sup>、生命歯学部歯科補綴学第2講座<sup>3</sup>
- 3-4 歯周治療を想定した象牙質表面に対する細菌付着の新たな検討  
○織田洋武<sup>1</sup>、佐藤 聡<sup>1,2</sup>  
新潟生命歯学部歯周病学講座<sup>1</sup>、先端研究センター再生医療学<sup>1,2</sup>

## 【展示ホール】

■10：00～17：00 ポスター展示

■16：15～17：00 ポスター質疑

- 4-1 **Enzymatic analysis of quinol peroxidase of aggressive periodonpathic bacterium**  
Taketo Kawarai, Tasuku Abe, Kiyoshi Konishi
- 4-2 **Morphological Situation of Cross-sectional Surface in the Root Canal Model after Preparation with Ni-Ti Rotary Files**  
Mariko Nagashima, Ichiroh Katsuumi
- 4-3 **Antibacterial Effect of New Root Canal Sealer Contained Mainly with Oleic Acid, Eugenol and Zinc Oxide**  
Munehiro Maeda, Shuichi Hashimoto, Katsumi Ishizuka, Ichiroh Katsuumi
- 4-4 **Relationship between dental occlusion and decline in ADL level in elderly people receiving home care**  
Sae Genkai, Takeshi Kikutani, Fumiyo Tamura, Ryo Suzuki, Mitsuyoshi Yoshida
- 4-5 **Immunohistochemical study of differential expressions of cytokeratin-13, -14, -17 and epithelial dysplasia of the tongue**  
Yasuo Okada, Michiko Moride, Hitoshi Hasegawa, Yasuhito Ohkubo, Yoriaki Kanri, Junya Ono, Hitoe Ishiguro
- 4-6 **Endodontic treatment on maxillary first molar using a microscope and the cone-beam computed tomography**  
Kazuo Kitamura, Hiroshi Iwata, Sakurako Asai, Takako Yamazaki, Takashi Ishii, Ichiroh Katsuumi
- 4-7 **An influence of staining solutions and tooth brush abrasion on appearance changes of laboratory composite**  
Yousuke Nakamura, Yuu Kagaya, Seira Shimada, Takako Takei, Tomomi Nakazawa, Maki Fujita, Akikazu Shinya
- 4-8 **硬質レジンおよびセラミックスの曲げ強さに試験法の違いが及ぼす影響**  
三浦大輔、宮坂 平、青木春美、相馬弘子、青柳有祐、石田祥己
- 4-9 **アマルガム除去時の排水中の水銀量の経時的変化**  
青木春美、宮坂 平、相馬弘子、青柳有祐、石田祥己、三浦大輔
- 4-10 **アマルガム切削片回収に関する研究**  
青柳有祐、宮坂 平、青木春美、相馬弘子、石田祥己、三浦大輔
- 4-11 **マイクロ CT による上顎側切歯根管形態の評価**  
天野亮子、勝海一郎
- 4-12 **マイクロ CT による下顎側切歯根管形態の評価**  
西田太郎、勝海一郎
- 4-13 **高齢者における義歯の装着状態でみた年齢と咀嚼能力との関係**  
田中優香、志賀 博、田中 彰、沖 淳、石川 忠、高草木章、小池拓郎
- 4-14 **高齢有歯顎者における主観的評価と客観的評価でみた咀嚼能力**  
山本早織、志賀 博、荒川一郎、中島邦久、藤井重壽、高草木章、小池拓郎
- 4-15 **上下顎前突の下顎歯冠近遠心幅径の特徴について**  
秋山宗太郎、新井一仁、織田育世、鈴木章弘、生駒美沙、塩谷翔太
- 4-16 **日本歯科大学附属病院平成 26 年度研修歯科医を対象に実施したシムロイド研修の概要**  
秋山仁志、三代冬彦、宇塚 聡、原 節宏、宮下 渉、岡田智雄、川村浩樹、山瀬 勝、新田俊彦、石田鉄光、山崎孝子、  
莊司洋文、後藤尚昭、梅津糸由子、中村仁也、北原和樹、羽村 章
- 4-17 **歯科矯正用ブラケットの素材による脱落頻度の臨床的検証**  
内田裕子、永島圭悟、宇塚 聡、小森 成
- 4-18 **口腔扁平苔癬、苔癬様口内炎および苔癬様上皮性異形成 190 検体についての免疫組織化学的研究**  
岡田康男、東理頼亮、大窪泰弘、石黒仁江、大野淳也、森出美智子、長谷川仁
- 4-19 **慢性硬化性唾液腺炎、Mikulicz 病および IgG4 関連リンパ球形質細胞性慢性唾液腺炎の免疫組織化学的検討**  
大窪泰弘、大野淳也、石黒仁江、東理頼亮、長谷川仁、森出美智子、土持 眞、岡田康男

- 4-20 レーザー照射による齶蝕予防に関する研究 — $\mu$ CT法による表層下脱灰と再石灰化の観察—  
東理頼亮、岡田康男
- 4-21 歯の接触を伴わない努力最大開閉口運動が閉口時の顎頭位に及ぼす影響  
小出勝義、小出 馨、水橋 史、高橋 睦
- 4-22 マウスガードシートの熱収縮を利用した成型方法の検討  
高橋 睦、小出 馨、水橋 史、佐藤利英
- 4-23 歯科領域にて採取可能な生体材料を用いたオーダーメイドの唾液腺再生医療に関する検討  
川上未有希、石川 博、高橋 悠、大山晃弘、中原 貴、田中 彰
- 4-24 同一患者由来の舌癌細胞株 (Nialym) と cancer stem cell 株 (Nialymc) ならびに xenograft 由来細胞株 (Nialymx) の樹立  
高橋 悠、大山晃弘、豊村順子、川上未有希、石川 博、中原 貴、田中 彰
- 4-25 高グルコース条件下におけるヒト歯根膜由来血管内皮細胞の性状変化  
丸山昂介、坪川瑞樹、清水 豊、佐藤 聡
- 4-26 口腔扁平上皮癌細胞における RASSF-1A の点突然変異解析  
谷島康太、福江武洋、田中崇之、井上瑛美子、永瀬啓樹、小牧令典、白井雅美、秋知美穂、大西洋揮、小林公彦、野村茜里、松尾恭子、山内直樹、美原希美、須藤 遥、今井一志、千葉忠成
- 4-27 歯科理工学研究会の学生における学年の違いによる印象材の取り扱い技術  
大山 豪、山田憲二、鈴木智之、原 新子、平野萌香、宮坂 平、青柳有祐、青木春美
- 4-28 金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンを用いた三ユニットブリッジ治療  
五味治徳、新谷明一、石田鉄光、秋山仁志
- 4-29 ホームホワイトニングの効果と後戻りを考察した一症例  
櫻田綾子、安倍美紀、高山理恵、石川明子
- 4-30 新生児期の気管チューブ留置により生じたエナメル質形成不全の一例  
松崎祐樹、内川喜盛、柳下寿郎、白瀬敏臣
- 4-31 口腔癌再建手術症例における術後感染予防に対する口腔ケアの有用性に関する検討  
佐藤英明、田中 彰
- 4-32 本学APDSA部による学生交流について  
久保田麻莉、菊地翔太、住友のぞみ、藤田 遥、後藤 遥、佐久間怜那、新井修平、柴崎皓一、梅原菜愛、大滝真央、石田理沙子、澤田伊央理、菊池憲一郎
- 4-33 地域包括ケアに向けた訪問歯科医療の現状と課題を考察する  
城井友幸、武内柚香里、田中 彰
- 4-34 セラミックプライマー処理したジルコニアに対するセルフアドヒーシブセメントと接着性レジンセメントの接着強さ  
新妻瑛紀、新谷明一、黒田聡一、五味治徳、新谷明喜
- 4-35 Quality of Life におよぼす熱可塑性樹脂の表面性状の変化  
山口彩那、上田康平、梅田魁人、岸 里香、関口貴之、中島健太郎、初瀬毅俊、黒田聡一



## 1. 在宅で“食べる”を支えるということ

講師：菊谷 武

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

患者の食べることの可否やどの程度までの食形態が安全に食べることができるかということについては、患者本人の摂食機能にのみ左右されるものではない。患者の摂食機能は、それを決定する一つの指標に過ぎなく、むしろ、患者を支える環境因子こそがこれを決定する際に大きな影響を与えともいえる。すなわち、患者の咀嚼機能や嚥下機能が大きく障害されていても、患者の機能に適した食形態を提供できる体制であれば、さらには、食事の介助場面においても適正な食事姿勢をとることができ、十分な見守りのもと介助できる環境であれば、患者は安全に食べることができる。一方、患者の咀嚼機能や嚥下機能がたとえ十分に備わっていたとしても、患者を支える体制がとれない環境においては、いつ何時、窒息事故や誤嚥事故が発生してもおかしくはない。特に、上記のような患者に対する環境因子の影響は、在宅療養者において顕著で、いわゆる介護力に左右されるのはいうまでもない。そこで、私たちは在宅療養中の摂食嚥下障害を持つ患者さんの支援を目的に、「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」を開設した。クリニックでは、歯科医師、医師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士が勤務し、外来および訪問診療において摂食支援、栄養支援を行っている。ここでは、地域における病診連携や地域における多職種連携など縦糸と横糸をつなぐ作業に腐心することになる。本講演では、北多摩南部地域におけるわたしたちの地域での取り組みと、他地域でのシステム支援について紹介する。

略歴：平成元年 歯学部附属病院高齢者歯科診療科入局

平成 13 年 10 月 附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長

平成 17 年 4 月 助教授

平成 19 年 4 月 准教授

平成 22 年 4 月 教授

平成 22 年 6 月 大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授

平成 24 年 1 月 東京医科大学兼任教授

平成 24 年 10 月 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

平成 21～23 年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「介護予防における口腔機能向上・維持管理の推進に関する研究」主任研究者

平成 24～26 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究」主任研究者

平成 26～28 年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有用性に関する検討」主任研究者



## 2. 地域包括ケアに向けた訪問歯科診療・口腔ケア の在り方と後方支援病院の重要性

講師：田中 彰

日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座 教授  
新潟病院 地域歯科医療支援室 室長

地域包括ケアシステムは、高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で最後まで暮らせることを目的に、医療・介護・予防・住まい・生活支援などの様々なサービスを一体的に提供する体制で、少子高齢化社会の進行に伴い、国策として構築が進められている。一方、歯科分野では、歯科医療の在り方として、「生きる力を支援する生活の医療」として地域と協働し、生涯にわたって全身の健康を保持・増進するための歯科医療が求められている。そのためには、要介護状態になった時点からの、歯科による専門的口腔ケアの介入と、シームレスな在宅歯科診療、訪問口腔ケアへの移行が重要となり、終末期にいたるまで、患者に寄り添う歯科医療が理想といえよう。現在、その実現に向けて、在宅歯科医療、訪問口腔ケアの充実と、地域在宅医療や介護との連携強化を目的に、在宅歯科医療連携室の設置や、退院時カンファレンスの導入などが進められているが、課題が多く、地域に浸透していないのが現状である。現在、急性期病院では、DPCに関連して退院支援部門が強化され、その一環として退院後も在宅医療が必要な患者には、退院時カンファレンスを実施し、シームレスな多職種連携による在宅医療が推進されており、診療報酬上も手厚くカバーされている。一方、急性期医療の現場では、周術期、感染管理、呼吸ケア、がん治療、栄養サポート、摂食・嚥下などに関するチーム医療に歯科医師や歯科衛生士が、口腔ケアや口腔機能向上訓練や摂食・嚥下訓練に関わるが必要不可欠になりつつある。これらの病院機能が、退院後も居宅において継続して行えるようなシステムとして、退院時カンファレンスや地域連携パスへの歯科の参画と、これらを後方支援する病院歯科機能が求められている。

現在、新潟病院は、新潟市歯科医師会、新潟市信楽園病院と協働し、急性期病院から居宅へとシームレスな在宅歯科医療をめざした退院時カンファレンス事業を行っており、さらに地域在宅歯科医療の後方支援病院の役割を担っている。その現状と課題について紹介する。

略歴：平成2年3月日本歯科大学新潟歯学部 卒業

平成6年3月日本歯科大学大学院新潟歯学研究科 修了 博士(歯学)

平成17年4月日本歯科大学新潟歯学部附属病院 口腔外科 助教授

平成18年4月日本歯科大学新潟病院 地域歯科医療支援室 室長併任

平成24年4月日本歯科大学新潟病院 口腔外科 教授

平成26年1月 日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座 主任教授

新潟県歯科保健医療対策専門委員／新潟県歯科医師会 医科歯科連携運営協議会委員

新潟県歯科医師会 災害歯科医療コーディネーター



### 3. 超高齢社会において口腔保健が果たす役割 — 歯科衛生士の現状と課題 —

講師：藤田浩美

日本歯科大学新潟病院歯科衛生科

わが国では、欧米諸国に比べ社会の高齢化がきわめて急速に進行し、世界中のだれもが経験したことがない社会を迎えている。今後は高齢化した社会がさらに高齢化する「超高齢社会」となる。長寿社会の到来は、本来望まれる喜ぶべき誇れることであるにもかかわらず大きな社会問題としてとらえられている。長寿化が問題となっている一つには、平均寿命と健康寿命との差が挙げられる。2013年には男性で9.02年、女性は12.40年と平均寿命が健康寿命より長くなっており、その間は日常生活に何らかの支援が必要となる可能性がある。加齢にともない確実に生じるさまざまな老年症候群、要介護高齢者と認知症高齢者の急増、後期高齢者での避けられない虚弱化など、不健康長寿期間を乗り越える覚悟が必要な時代となった。超高齢社会において高齢者の健康を維持するためには、病気の予防だけでなく、健康要素である生活機能の維持向上と要介護状態となることの予防が重要となる。高齢者の保健（予防）、医療（治療）、福祉（ケア）のありようを専門職に限らず、国民一人ひとりがそれぞれの地域で考えなくてはならなくなった。口腔保健もこのような時代や社会からの要望に対応していかなければならない。歯科専門職にはそのための技量、知識が広く求められることになる。そして、今後ますます在宅医療に対する期待とニーズは大きくなり、歯科も訪問診療のチームにメンバーとして携わることが必然になってくると考えられる。訪問診療は、医療のみで完結するものではなく、保健、医療、福祉などの多職種からなるチームサービスであり、それらの連携が非常に重要となる。状況、情報、スキル、理念などを共有するために高いコミュニケーション能力が必要になってくる。歯科医療、口腔保健に関しては歯科がコーディネーターとなり、リーダーシップを発揮していかなければならない。なかでも口腔保健は、介護予防と密接に関連しており、歯科医師とともに歯科衛生士が活躍できる機会が広がると予想される。現在でも、一部の歯科衛生士がそのような立場で活躍してはいるものの、使命感をもった勇気ある歯科衛生士が現場で実践しながら、手探りで独自にスタイルを確立している場合がほとんどとみられる。これからは、目標を定めた的確な人材育成が必要であり、歯科衛生士の教育プログラムとキャリア開発を系統立てて確立することが急務と考える。また、このような現状に即した歯科衛生士業務の適切なガイドラインの策定と高度な医療技術が必要となる業務にともなうリスク保障の整備などが求められる。

略歴：昭和 60 年 日本歯科大学附属新潟専門学校（現日本歯科大学新潟短期大学）卒業

昭和 60 年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院（現日本歯科大学新潟病院）歯科衛生科勤務～現在

平成 11 年 介護支援専門員実務研修修了

平成 13 年 介護支援専門員登録

平成 21 年 院内感染予防対策認定歯科衛生士（日本口腔感染症学会）

平成 25 年 日本女子大学家政学部通信教育課程食物学科卒業（家政学士）